

琵琶湖の環境と生物多様性の保全

1月28日(土)、草津市烏丸半島の琵琶湖岸で、「ニゴロブナ・ワタカ」の放流式を実施し、役職員720名が参加しました。

ニゴロブナとワタカは琵琶湖の固有種ですが、近年は、外来魚の増加により絶滅の危機に瀕しています。

今回の放流式では3,500匹を放流しましたが、本年度は今回の放流分も含め計60,000匹を放流します。

ニゴロブナ・ワタカ放流式



▲「元気に育って」と願いを込めて放流しました。

ところで、どのように資金が拠出されているのでしょうか？



お客さまが、環境対応型融資商品を利用して「太陽光発電システム」等を導入された場合、削減された温室効果ガスの量を当行が推計します。

そして、排出権取引価格を参考に金額換算をしてニゴロブナ・ワタカの育成・放流事業に資金を拠出しています。

ヨシ刈り

放流式後に、「ヨシ刈りボランティア」も実施しました。

背丈以上に成長したヨシを相手に、悪戦苦闘！

しかし、中にはスイスイと刈るベテランさんの姿も。

ボランティアとして休日に集い、琵琶湖の環境保全の大切さを身をもって体験し、達成感のあるヨシ刈りとなりました。

